「飛鳥Ⅱ」での横浜～神戸間(往復)クルーズ物語

8/24/2013

北村社会福祉士事務所
代表　北村弘之

一度は乗ってみたいと思っていた「大型客船」。今回はその「飛鳥Ⅱ」に乗船してクルーズすることができました。それはとてつもなく大きい客船で、まさに「洋上のホテル」でした。今回は、取引先の金融機関の記念行事ということで、約 800 名強の乗船がありましたが、乗組員も約 450 名ということで大イベントでした。

多くの方は、二人連れで、夏休み期間ということもあり、小学校のお子さんと一緒にという家族も見られました。しかし結構年配の方も多く、平均年齢は 70 歳前後かと思われましたが、やはり洋上旅行なので、元気な高齢者が圧倒的でした。そんな、2 泊 3 日の横浜-神戸間往復の旅でした。

【洋上のホテルとはよく言ったものです】

全長 241m、幅 29.6mのスケール。客が行き来できる階(デッキ)は、5 デッキから最上階の 12 デッキまでと、あまりにものスケールの大きさに、初めての人向けに出航まもなく「船上案内ツアー」があったほどでした。その中には客室が 436 室、レストランやカフェが 4 つ、ラウンジやバーが 6 つ、ショー劇場が 3 つ、カジノコーナー等のアミューズメントルーム、プール、図書館、女性に人気のショップ、個人的に一番よかったのは最上階にあった「スパ」でした。個室にもバスはありましたが、何と言っても最上階は解放感にあふれ、眼下に海が見えるジャクジー付のスパは大いに賑わっていました。この点はやはり日本船という感じがしました。船の中ではアルコール類は有料ですが、それ以外は料金込みとあって、カフェや焼きそばまたハンバーグ等の軽食を提供する場所は多くの人で混雑していました。混雑しているところは日本的でありました。しかしもっと余裕のある雰囲気もあった方がよかったと思ってみましたが、それにはもっと高い料金が必要とも感じた次第です。

私たちの部屋は 8 デッキの左舷最前列とあって、どこに行くにも、長い廊下を歩いていくことになりましたが、部屋が最前列ということで何か優越感に浸っていました。

←8 デツキの住人となった２泊３日でした

【クルーズでの楽しみ方】

クルーズの数か月前には、初めての参加者向けに「説明会」なるものがありました。気になったのは、夕食時の「ドレスコード」と「船酔い」のことでした。幸いにして、今回は「インフォーマル」と「カジ

ュアル」だったことで、ふだん着なれた背広や洋服と靴で食事に出かけられました。但し、ドレスコードと言っても、17時以降の限られた場所での装いです。また、船には横揺れ装置はついているものの、沿岸部分ではどうしても揺れを感じ、酔っているわけでもないのに、足元がふらついていました。この3日間、波は結構穏やかだったので、風雨があった際のことを想像すると乗船をためらう感じになりそうです。やはり、波がないことが一番です。(飛鳥の平均航行時速 33km、最速は約40km 弱ということでした)

また、クルーズの中では、朝から夜までイベントがあり、「Asuka Daily」なるものが毎日発行されており、その日のイベント内容、そして食事内容や場所がわかるようになっています。この「Asuka Daily」は前日の夕方に個室ごとに配布され、これをもとに翌日のプランを立てるのに大変よいものでした。その日の気分や身体状況により、私は自室で本を読んだり、一周 440mのデッキをウォーキングしたり、ジムに行って機械トレーニングをしたりしました。そして、汗をかいたあとはスパですっきりとし、昼寝をすることもありました。ただ女性の人気はやはりショッピングです。洋服やカバン、おみやげ店などは通るたびに混雑していました。

ショーは一日一回でしたが、早めの夕食の方には食事後の 20 時から、また遅めの夕食の方には食事前の 18 時から楽しめました。本場ラスベガスでの企画とあって、踊りも歌もプロのダンサーの真骨頂を観た感じがしました。もちろんすべて外国人でした。

それにしても、「海」を見るのも楽しみでした。他の船の往来があったり、伊豆諸島の島々、明石大橋、またデッキで楽しむのもよく、時間があっという間に過ぎました。

出航前の避難訓練

早朝の明石大橋

【国籍様様々な乗組員】

乗組員の総数は約 450 名。そのうち、日本人スタッフは船長を含めて約 110 名ということです。食堂では、東南アジア系の男性ウェイターが愛嬌を振りまいて接客しており、年配の女性からは大変好評のようでした。また、客室担当も東南アジア系の女性で占められており、ともに朝には「オハヨウゴサイマス」昼には「コンニチワ」と一生懸命に日本語で対応してくれていました。社員教育も徹底している様子でしたが、お互いが話すときは母国語で話しているのが印象的でした。

ダンサーは、ルーマニア人が多いようでした。日本人ばかりの客であるにも関わらず外国人の乗組員がいることで多少とも異国情緒を味わえた3日間でした。

神戸港での出航セレモニー

以上